

「上松町こども計画」（素案）に対するパブリックコメント実施結果

- 1 意見募集期間
令和7年2月18日（火）～ 令和7年3月3日（月）
- 2 閲覧場所
町ホームページ、アンケートフォーム、公民館、子育て支援センター
- 3 コメント内訳
インターネット提出9件（意見数41件） 意見用紙提出 2件（意見数 2件）

NO	該当ページ	ご意見・ご提案	町の考え
1	P2	オレンジの吹き出しの中にある文字が「笑顔あふれる"あげま で終わっています。	「あげまつ」に修正します。
2	P3	高校生に対する支援について記述がみられず、切れ目のない計画になっていないように思います。高校生でも発達特性のあるお子さんなどについては学習、進路などにおいて支援を充実させる必要があると思います。現在も連携は取られていることもあると思いますので、それを明確に計画に示す必要があると思います。	高校生は、若者に含めて計画に示すこととしています。今後、切れ目のない必要な支援等を検討します。
3	P5 P11	「総人口の推移」、 「小学生児童数推移」のグラフは数値が0から始まっていないため、数値の差が大きく見えてしまい、違和感を感じました。	見やすいグラフに修正します。
4	P19	これだけ共働き世帯が増加している時代で、頼れる教育・保育事業が学校と保育園だけでは、時代に追いついていないと感じる。 田舎だから、と自身に言い聞かせて、仕方がない、と諦めるしかない現状は、子供が増えていく未来につながるのか甚だ疑わしい。 その結果がファミサポの利用希望という結果に現れていると思われる。	町でも一度ファミリーサポートセンター事業の立ち上げを試みましたが、受ける側の公募に対して申込者がなかったため、断念した経緯があります。同じ時期に子育て支援センターも立ち上げたので、一時預かりで対応することとしております。 幼児期だけでなく、それ以降も必要な家庭があることや時代の変化も考慮し、今後について検討を重ねるようにします。

5	P20	この結果は、単純にすでに保育園を利用しているから、支援センターを利用する必要がない、という回答が大半を占めているものと思われる。前述したが、共働き世帯増加に利用者減の一因もあると思うが、支援センターの存在は、利用していた側としては大切な存在だと思う。	ご意見にある通り、保育園に通う子どもが多くなっていますが、支援センター利用者の8割は「今後も利用したい」と回答しており、必要性を感じています。今後も出産後の母親の体調や気持ちの変化に対応し、子どもの預かりや親子での遊び場の提供を保育園とも連携をしながら継続していきます。
6	P22	子どもの病気や学級閉鎖の対応がなにより堪えます。高校卒業までの最大難易度の問題です。子どもだけクスリとカップ麺を置いて仕事に行った方を何人も知っています。いずれの方も、うちも祖父母には頼れません。祖父母自身の健康状態もあり、祖父母にもうつす訳にはいきません。せめて上松町内に所在がある企業さまへ協力を仰げないでしょうか？有休で休んだ分は会社としてはマイナス経費です。そこへ補助金等を出していただくことで病気療養中の児童の療養のためのお休みを取りやすい環境にならないでしょうか。年の有休取得日数が10日ある方のうち、インフルエンザで学級閉鎖5日間とか、、、有休が足りなくなるのは当たり前です。欠勤となり、収入源。休みが多いと就業態度も良くないとみなされ、社内雰囲気もギスギス。結局退職になって、転職の日々。収入は安定しないし、税金だって納められない、、の繰り返し。気合いを入れて社会全体で子育てするのであれば、町で对企业まで考えていただかないとただの耳障りのいい話で終わります。	ご家庭の対応は各家庭の事情によってそれぞれ違い、お勤めの企業によっても福利厚生は様々ですので、町から補助金を出すことは現段階では考えておりません。町内の企業に協力を仰ぐことについては、今後の参考とさせていただきます。
7	P23	病児保育はぜひ利用したい。 就労する企業の事情も当然あるが、未だに病児の看護の多くは母が担うものという認識が保護者本人、世間共に強く残っている。 そうなると働く親、特に母はその度に休みを取得せざるを得ず、有給など即無くなり、欠勤せざるを得ない。 その状況で子供を更に持とうと思える親はどれだけ増えるのか？ 祖父母に頼れる家庭は成り立つだろうが、どの家庭もそうとは言えない。病児保育が利用できたらと考える家庭は一定数いると思う。	病後児保育については、ニーズ調査でも希望が多かったことから、病後児保育を実施している園へ視察に行き、町でもできないか検討を重ねているところですが、医師との調整や看護師の確保など実施要件に該当させることが課題となっており難しい状況となっています。
8		病児保育の預かりをやってほしい。	

9	P24	放課後の過ごし方として、我が家では保育園児と小学生といるため、送迎箇所が複数となる負担から現状祖父母宅で過ごしている。 この点は家庭の事情だが、こういった学童の存在は大変重要と認識している。 長期連休の際には流石に祖父母宅に毎日では負担が大きく、我が家は長期連休時は学童を利用させて頂いている。 P35にも関連するが、指導員の先生方の確保が重要と感じる。	調査結果などから、働く保護者が多いことが分かります。放課後や長期休暇にお子さんが安心して過ごせる場所の提供を今後も目指していきます。
10	P24	なぜおひさまクラブと第三の居場所が分かれているのでしょうか？合わせて活動しないと認めてくれないのだと聞いたことがあります。割合を合わせると8.4%と10.0%です。上位ですよ。必要とされているところへ 町は協力していますか？人員にしろ、経費にしろ、どういう子どもが通っていて、どういう接し方をしたいのか目で見て、声を聞いて、一緒に過ごしたことはありますか？共働き、放課後帰って1人で過ごすことになってしまうわが家は大変助かっております。	児童クラブは、保護者が就労している家庭を対象としており、第三の居場所は、保護者の就労に関わらず対象としており、子どもや家庭の心配ごとに応じたサポートをしています。 活動は一緒に行っていますが、利用対象が異なるため、調査では選択肢を分けています。 今後も安心してご利用いただけるように、委託先と連携を図っていきます。
11		「おひさま」の利用に関して町とのズレがあるから利用する当事者がきちんと使えるように工夫をして欲しい。	ズレを感じない利用ができるようにおひさまと調整するようにします。
12	P25	放課後自宅に戻ってる子どもたちが全体の1/4から1/3程度いるようですが、ご自宅にどなたかがいらっしゃるということでしょうか？子どもが一人でお留守番なのでしょうか、、、内容が気になります。 うちは一人になってしまうので留守番はまださせません。隣近所と距離があり、何かあっても助けを呼びにくいからです。また連絡用と防犯用に小学生ですが、本人が使えるスマホもあります。 中学卒業までの放課後の過ごし方に悩んでいます。平日17時半から20時、親の仕事が終わるまで安全に過ごせる場所や勉強ができる場所がほしいです。なければ部活をしてほしいです。学校部活が地域へ移行することも知っています。夕方の時間に公民館活動ができるものはないのでしょうか？	自宅に戻っている子どもたちの自宅に誰がいるかはアンケート調査では把握できておりません。 安全に過ごせる場所として、公民館があります。フィットネスルームや図書室があり、学習の場所も提供しており、21時まで開館しています。夕方の公民館活動については、毎日の実施が難しくなっていますのでご理解をお願いします。
13	P27 からP30	上松町のこども・若者・子育て支援の課題 アンケート結果より見えてきた課題が上げられています。どれも大切な課題と感じます。 給食費の無料化や医療費の無料化などは大変ありがたい事業ですが、お金では解決できないこともたくさんあります。ソフト面の充実をお願いします。	相談窓口や、保護者間・世代間交流の場を設けるなどソフト面の取り組みも行っていますが、さらに充実させていくための取り組みも検討していきます。

14	P28	学校保健室からケガをしたので病院にかかれと連絡があり、夕方時間外だったので、日を改めて翌日受診しに木曽病院外来へ行ったら、眼科は要予約のため2週間後しか受診できないと言われたり、高校生は内科だけで火曜日は外来はやってないと言われたり、、、。一体どうすれば???結局、眼科は塩尻へ、内科は受診したことのないお医者さまへかかりに行き、、、。学校保健室と木曽病院との連携をはかり、保護者にも受診ルールを周知していただきたいです。	学校での病気やケガについては、各医療機関と連携しております。帰宅後や休日などの受診については、それぞれの医療機関に連絡の上、各ご家庭で対応をお願いします。
15	P29	赤ちゃん触れ合い体験は大変素晴らしい取り組みと思っています。 しかし、記載のある通り、現実問題として年々出生数が減少する中で、継続してこの活動が実施できるものなのかが課題となるかと思います。 乳幼児と触れ合う機会の減少が見込まれる今の小学生以下の子達への実施方法として、支援センターへの保育体験なども良いかもしれない。	可能な限り赤ちゃんとの触れ合いを実施したいと考えていますが、状況により叶わなくなった場合は、いただいたご意見を参考に実施方法を検討していきます。
16	P29	赤ちゃんふれあい体験の乳児減少 NPO法人ママの働き方応援隊による赤ちゃん先生事業を検討してみたらいかがでしょうか。	
17	P31	基本理念 「地域協働で支えあい、全てのこどもが、全ての親が安心して安全な環境で育つまち」とあります。 他にも資料のなかに、地域とのかかわりが大切と何度も出ています。 学校や保育園へ、もっと地域としての関わりを多くすることを求めます。 地域の住民にとって、学校や保育園は特別な存在です。地域の方々はなんとか力になりたいと思っている方も潜在的に多いのではないかと私は感じています。 ですが、今の現状で地域のかたが気軽に力になれる環境になっているとは私は感じません。 学校支援ボランティアさんもいらっしゃいますが、最初に募集してから10年以上たつのではないしょうか。高齢になってきて、環境整備の作業が大変そうですが役場からの依頼がずっと同じかたへ行くので見ていてとても大変そうです。 広報あげまつで環境整備をしてくれるかたを募っていましたが、環境整備は今後は地域の方に頼むよりも業者に頼んだり違う方法を考えていったほうがよいと感じます。	気軽に参加できることも大切にしながら、自発的で、継続性のある学校ボランティア活動が行えるよう、引き続き、地域人材や地域活動発掘、ボランティアの募集を行い、活動に対しての支援も検討していきます。大変な除伐作業などは、町が業者に依頼して行っています。 保育園においても、小学校が実施している「地域参観日」などを検討していき地域の皆様に園のことを知ってもらう努力をしたいと思います。また、地域の方のボランティアも検討していきます。

18	P34 P35	山梨の方に聞いたお話で出産すると1週間だけではなく、その後も少し保育園で上の子を預かってくれるそう、、。育児休暇中などの条件などあったと思うが、支援センターだとお弁当、保育園だとお弁当がいらないという点では預けやすく、負担もとても少ないので出産子育てしやすい。	出産日を含めて産後8週間までのお子さんを保育園でお預かりすることができますが、事前に保育園までご相談下さい。各ご家庭などの事情により様々なケースがありますので、その都度柔軟な対応をしております。
19	P34 P35	以前あったように支援センターと保育園を同じ場所にするべき 核家族にとっては子育てや出産もしやすい	ここ5～6年でお子さんの出生数も減少しており、保育園も各年齢1クラスになってきました。今後、空き部屋を活用するなど、支援センターを保育園と併設できるように検討していきます。
20	P36	「国型コミュニティスクールの良さを活かして活動する」とありますが、「良さ」とはなんでしょうか。もう少し具体的な記述が必要だと思います。	国型コミュニティスクールでは地域住民と学校とが連携して子どもの育成や学校運営に取り組むことができるという良さがあります。今までは学校運営は校長に一任、学校支援活動はボランティアでという傾向が強かったですが、学校運営協議会で話し合って進めることにより、これまで以上に地域住民と学校が連携して、子どもの育成や学校運営に取り組むことが期待できます。また、組織で進めるのでより持続可能なものとなります。計画の中にも簡潔に記述します。
21	P37	地域における人材育成 多様な人材が町の子育て支援にかかわっていただけるように、 地域全体で子どもや子育て家庭を支援する観点から、 とのこと。 地域の人が地域の子どもを育てる意識を持つためにも、気軽に楽しく自発的に地域の方が学校や保育園に関わることができる上松町ならではのコミュニティスクールを作り上げて行ってほしいです。 小学校のクラブ活動で、地域の人と将棋を打つとか、昔の遊びを一緒にするとか。 ファミリーサポートさんが、地域移行する部活の送迎をしてくれるとか。	学校では、授業の中で地域の方がボランティアとして地域文化活動を行っています。地域の方が、楽しく、自発的に参加できるコミュニティ・スクールとなるよう、人材や活動の発掘を行い、活動に対しての支援を検討していきます。
22	P42	コミュニティスクールの充実 学校運営協議会がコミュニティスクールということですが、メンバーが当て職のように感じます。本当に地域の子どもを大切に思うかたに。メンバーを広く公募してはどうでしょうか。	学校運営協議会の委員の選出方法について、公募も含め検討していきます。

23	P46	結婚当時、上松町でも住まいを探したが、当時はほとんど住居の情報がなく、町営等もタイミングが合わず他町村で探した。 住宅の充実は、若い世帯を取り込んでいくには重要と感じる。 また、この町で子供を産むことは安心できる、とどれだけ若い世帯に思ってもらえるかが重要だと感じる。子供の増えている町村の好事例を参考にした政策を取り入れてくれるとよいと思う。	住宅については、世帯向けの住宅の建設や空き家活用に取り組んでおります。今後も若い世代がこの町に住みたいと思えるような政策を他市町村を参考にしながら検討していきます。
24	P46	「子育て世代への経済的支援」の中に高校生の通学費助成は入りませんか。	高校生の通学費支援を行っており、令和6年度は申請件数が92件ありました。計画内「子育て世代への経済的支援」に反映させます。
25	P46	子供の安全な遊び場として、天狗山はあまり向かないのが難点と感じる。 熊などの野生動物の出没が怖く、せっかくの楽しい遊具があっても休日に子供達を連れての利用をためらってしまう。 また、あまり人の目がないため、何か事故などがあっても人に助けを求めにくい。 できればもっと人目のある場所に、大桑村のスポーツ公園のような遊具のある公園があると良い。 そういった場所が上松には無いため、小さな子供のいる保護者は、大桑村まで行くのが現状だと思う。	町でも、天狗山公園の野生動物出没等の安全性の課題は把握しております。 今後、より安全で魅力ある公園にできるよう、天狗山公園の再整備計画を検討していきます。また、駅前公園の整備も検討しております。 日曜日や祝日には、保育園の庭を開放しておりますので、お子様との遊び場としてご利用ください。
26	P48	入学時、4年生進学時に通学用ヘルメットを配分。 通学用ヘルメットは登下校の安全を守るための安全対策として配布されていると思います。 が、昨今の猛暑ではヘルメットをかぶっているほうが熱中症のおそれがあり児童の安全対策になっていないと感じる時があります。児童はとても素直なので、ヘルメットを登下校でかぶるのは決まりだから、と律儀にかぶりますが帰ってくると物凄い汗だくです。 夏場の6月から9月までは、ヘルメットの装着は任意としていただきたいです。	安全のため、ヘルメットの着用による登校を基本としていきたいと考えております。しかし、夏場の熱中症への対策は優先される事項と考えますので、状況に応じて学校と連携して対応していきます。
27	P48	仕事と家庭の両立に向けた取り組み 仕事と家庭を両立することは、子どもがいるいないに関わらず誰でも当てはまることです。 先生や役場職員の方々は仕事がとても多忙に見えます。先生や役場職員のかたも、定時に仕事が終わリプライベートな時間も充実させることができることが回りまわって子どもたちのためになると考えます。 まずは先生、役場職員や学校運営協議会の皆さんが定時に仕事が終わる環境になるよう積極的に動いていただきたい。 そのために、学校をサポートする支援員の充実を求めます。	教職員の働き改革を始め、役場職員の業務環境改善に取り組んでおります。支援員については、人材確保など難しい状況もございますが、充実に努めていきます。

28	P60	産後ケア事業は大いに賛成です。 子供達が乳児の頃にこのようなサービスがあったらどんなに良かったか、と今でも感じる。更に言えば、料金が当然発生すると思うが、配慮いただけると尚良い。	利用しやすい事業になるよう、利用料についても今後検討していきます。
29	P62	町民の皆から意見を取り入れる場を設けていただけたことは感謝します。 的外れな意見だったかもしれませんが、意見を発する場は大変ありがたかったです。	今後もより良い計画を立てるためにニーズ調査等行い、住民の皆様からのご意見を参考とさせていただきます。
30		いろんな世代全体に意見を聞いてほしい。結婚されてない方の考え、子育て中の方には子どもをもう一人産み育てていくために必要なもの.こと、子ども世代本人たちがしてほしいこと.あったらいいなと思うこと、子育てが一段落してる世代にはあったらよかったなあとと思うところなど、出るといいなと思います。また、今回だけでなく町として子どもとどのように関わっていくのか、将来どういった町でありたいのかビジョンがまとまったら見せていただきたいです。	今回は就学前のお子さんがある家庭の保護者と、小学生がいる家庭の保護者にニーズ調査を行いました。今後、こども・若者にも意見をお聞きし、計画に反映していきます。また、他の世代への意見聴取については必要に応じて検討していきます。
31		お疲れさまです。以下意見します。 「こども計画」策定を目的とせず、こどもや保護者、NPOなど広く意見を吸い上げて改善を繰り返し、「こども計画」を見直しながらこどもと共に育ててください。 こどもの自殺者が増加傾向にあることは、大変残念です。自殺に至らないものの生きづらさを感じているこどもの数は、自殺者の300倍とも推定できます。大人の体裁や勝手都合でこどもの気持ちを封じたりしていることに、気付くことが大切です。頑張っている職員さんの言葉や行動で、よりいっそうの"こどもまんなか"社会の実現に向けた啓蒙啓発活動に期待しております。私も頑張ります。 以上	計画については、毎年度末に見直しを行っており、今後も継続します。 ・こどもの自殺対策について 小中学校と協力し、SOSの出し方教育を小学校4年生・6年生、中学校3年生へ実施しましたが、今後も計画的に実施していく予定です。相談先の周知も継続的に実施し、生きづらさを抱えるお子さんや保護者の相談を医療機関等と連携しながら実施していきます。
32		子育て中の母親のカウンセリング等をしてくれる臨床心理士等を配置してほしい。	臨床心理士等の確保が課題となっています。カウンセリング等を実施できる機関のご紹介等個別に相談を受けながら、対応方法を検討していきます。

33		若者も計画の対象となっていますが、若者に対する施策が見当たらないように思います。若者のひきこもりなど上松町における実態はわかりませんが、計画に位置づける必要があると思います。	若者の施策については、今後意見聴取を行い、上松町地域福祉計画と連携をはかりながら、計画に反映させていきます。 ひきこもりの方への支援については、令和6年3月に策定された上松町地域福祉計画の中で課題としています。実態把握や支援体制については、今後関係機関と連携しながら検討させていただきます。
34		保護者へのアンケートは取られていますし、計画に対するパブリックコメントも募集していますが、施策の対象となる子どもや若者にも意見を聞くこととなっていると思います。どのように意見を聞くのかについても計画の中で示したほうがよいと思いました。	来年度は小中学生には学校で意見をお聞きし、若者には、ホームページなどで意見を募集することを計画の中に示します。
35		上松で生まれ育つ子どもたちの幸福を祈っています。計画の十分な実施をよろしくお願いします。	上松ならではの自然豊かな風土の中で、安心して健やかに成長できる町になるような計画を策定していきます。
36		いつも子育て支援、様々なところでお世話になりありがとうございます。 我が家の子どもたちは、もりの寺子屋やきっころの長期休み中の行事、また支援センターの行事(今年は味噌作り、豚汁作り、木琴作り)など、いつもとても楽しみにしていて、ほとんどの行事に参加させていただいております。毎回、色々な体験をさせていただき、その中には上松ならではの体験もあり、子どもたちは楽しかったと喜んで帰ってきます。いつも本当にありがとうございます。 そんなすてきな体験を上松のたくさん子どもたちにしてもらえたらいいと思います。学校で配布されるお便りを見て、興味のある子は申し込むと思いますが、興味のない子どもでも、やってみたら楽しかった、また体験がきっかけで興味がわいてくるということもあると思います。また、日程が合わず参加できない子どももいるかもしれません。 そこで、できたら、そういう体験を学校の活動(学年ごとなど)の中に入れていただくことはできないかなと思いました。特に、上松ならではの体験は、大きくなった時に上松で育ったことを懐かしく思ったり、誇りに思ったりするのではないのでしょうか。 去年度4年生は、地域の方に教えていただいて、畑で赤かぶを育てて、すんき作りをしました。ほうば巻を作った学年もありますが、学年によっては体験していない子どもたちもいます。他町村では、学年で田植えや稲刈りなどの体験をしている学校もあると聞きました。例えば、1年生ではほうば巻、2年生では味噌作り、3年生では…とすると、みんなが色々体験をできるのではないかと思います。	ご提案について学校と共有します。また、今後も季節や上松ならではの行事を企画し、子どもたちに楽しんでいただけるよう参考にさせていただきます。

37	世の中の目覚ましい発展の中で、身近な自然や仲間がだんだん遠くなり、子供たちの内籠り・孤立化・故郷離れ等が感じられています。これからの子供達には故郷の豊かな自然や故郷の人々・友達ともっともっと強く心を繋いで、楽しい子供時代を過ごしながら、明るく逞しく生きる力を身に付けて行って欲しいと願って止みません。そこで、以下のような6事業はいかがなものでしょう。よろしくご検討ください。 1.地域の生徒・児童会支援事業 小中（高）合同地域友の会の結成 地域クラブ・兄（にい）や姉（ねえ）の育成支援 2.里山開放事業 地域周辺部の山野開放、山遊び推奨 山菜・茸狩り自由、そり滑りコース整備等 3.空き地・空き家開放事業 空き家・空き地の借り上げ開放　未舗装地の遊び場確保 地域子ども集会所・子ども図書館設置 4.休耕田畑開放事業 休耕田畑借り上げ　鮎・鯉・泥鰌・金魚等飼育、米・野菜栽培 冬季スケート場に開放・管理 5.天然プール増設・開放事業 町内河川整備　赤沢ようの天然プール増設、開放 水遊び・魚取り自由 6.公共施設の清掃等　お手伝い推奨事業 シニアクラブ等と協力・共同、お駄賃支給	今後、子どもたちの意見も聞きながらご提案いただいたような事業についても検討していきます。
----	---	---

38		素案を作成・審議する委員は各関係機関とありましたが、その一員として拝命を受け参加させていただいたところ、委員の多数が役場関係の職員であることに驚きました。意見の集約については、子育て中の家庭に向けてのアンケート調査で意見を吸い上げたことになっています。アンケートとは、作成上聞きたいことだけを答える質問形式であったり、自由回答欄があっても、単なる意見とでしか取り上げられない可能性や質問したことに答えてもらえるわけでも無いために、せっかくの意見・アンケートも一方通行になりがちです。これからの子育てを担う若い家庭の保護者に対して広く意見を求める場合は、やはり作成・審議をするメンバーに子育て代表のみならず、当事者を一定数入れていくことが必要と思いました。子育ての代表も所属する機関でどれだけの意見を取り上げて参加したかということ、難しかったと思われ、準備にかかる時間や方法を考えていただきたいとも思います。少子化の中、本気で子育て支援をするのであるなら、当事者ありきで細やかな内容、実行に移されていかれることを切望します。	子育て支援の施策の推進に関与し、行政と一体となって各事業の充実を図ることを目的としているため、町職員も委員となっています。今後、子育て当事者の意見を必要とする場合は住民の方が意見を出しやすい方法を検討していきます。
----	--	--	--

39		上松町こども計画を5年毎に見直しをかけ、パブリックコメントを募集するということで今回は意見聴取ありがとうございます。 上松町こども計画について意見・要望を言う前にひとつ。 今回のパブリックコメントの募集期間が2/18から3/3の2週間となっています。募集期間がとても短く感じます。上松町こども計画は62ページにと膨大でデータも多く読み込むだけでも大変時間がかかります。せっかく意見を出そうと思っても上松町こども計画を読み切ることができません。5年後にまたパブリックコメントを募集するときには、募集期間を1ヶ月ほど取っていただきたいです。	今回、期間が短くて申し訳ありませんでした。今後このようにご意見をいただく時には、適正な期間をとるようにします。
40		全部読みました。 2週間で60ページ以上の内容を読むのは大変だったので、もう少し時間が欲しかったです。	
41		資料としてはなるほどと思いましたが、これは子育てをしている、またはしてきた、これからする当事者の方々は入るのでしょうか？これからのことを考えるのが最後のページにはありましたが、当事者の方々がきちんとそこに入らないとただの資料なのでしっかりと実行できるものにして欲しい。	計画をたてるにあたっては、今までの施策の振り返りやニーズ調査をもとにしています。また、子ども・子育て支援会議の委員には保護者の代表として保育園の保護者会や、当事者と関わりのある機関の代表が入っております。計画を元に施策を実行していきます。
42		SNS等の活用をしてほしい、LINEでは情報は来ますがもっと活発かつ世代間別の情報も欲しい。 郡内の他町村、郡外の市町村とも関わりがあり話したり情報をもらったりしますが、上松町もいっぱい情報を出して欲しい。	妊娠から幼児期頃までを対象にR7年度の5月頃より母子手帳の電子化を予定しています。情報発信としても活用していく予定です。 また、他関係部署とも共有し、町の情報を都度発信していきます。